

金沢市議会意見交換会  
テーマ「人口減少社会」

金沢市の人口移動と若者定住  
～データから見えること

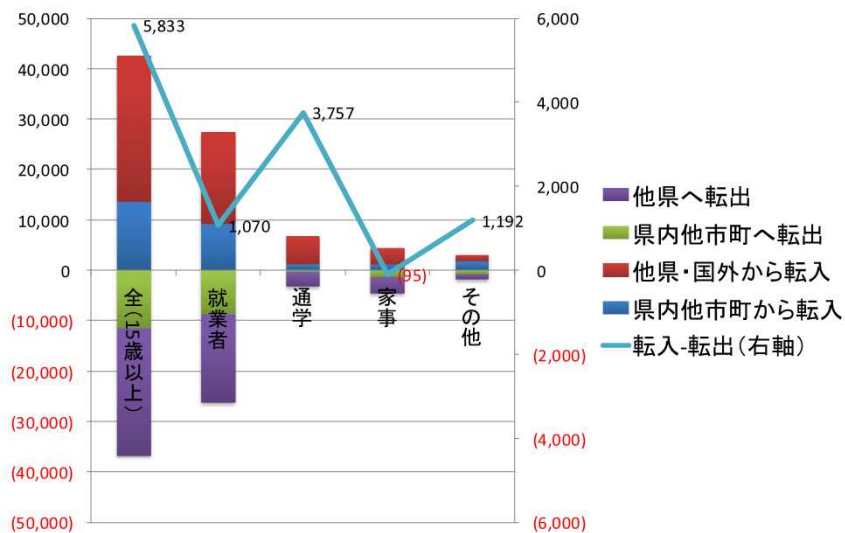
2017年11月28日

佐無田光(金沢大学人間社会学域)

データから見る金沢の現状

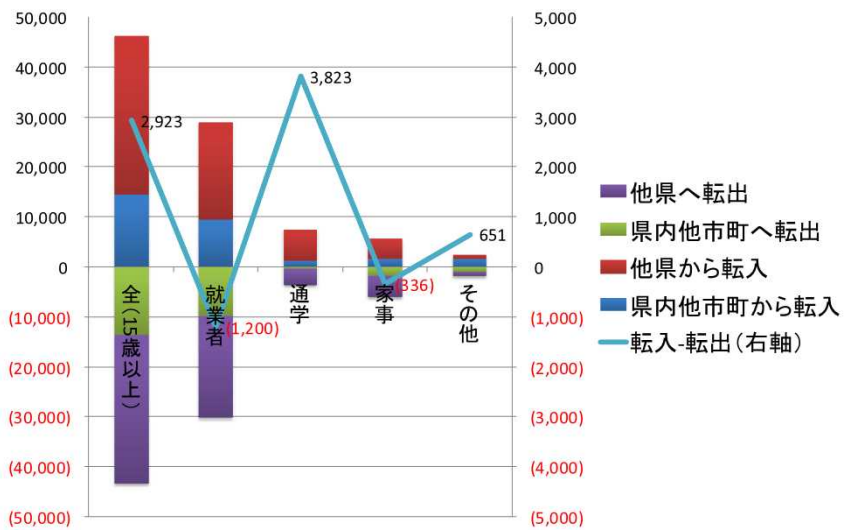
- この5年間で転入超過数は全体的に増加した。学生の転入超過が大きいが、就業者も転入超過に転じた。
- 大学卒業時点だけでなく、就業後の転出が多い構造があったが、30～39歳の転出超過はかなり緩和した。
- 産業別で見ると、製造業の転出割合が大きく、宿泊・飲食、教育・学習支援業で転入割合が大きい。卸・小売業と運輸業は転出超過に転じた。公務は流動性大。
- 転入も転出も増えたが、転入の方が増えており、県内・県外いずれも転出超過から転入超過に逆転。とくに県外からの転入者が増えた。合計特殊出生率もアップ。
- 県内の人の流れは、能登・南加賀→金沢→周辺部。県外では、富山・福井→金沢→首都圏・近畿圏。

金沢市における転出入(2010～15年)。労働力状態別、  
出所：国勢調査より作成。(単位：人)  
※ただし、国外先転出分除く。

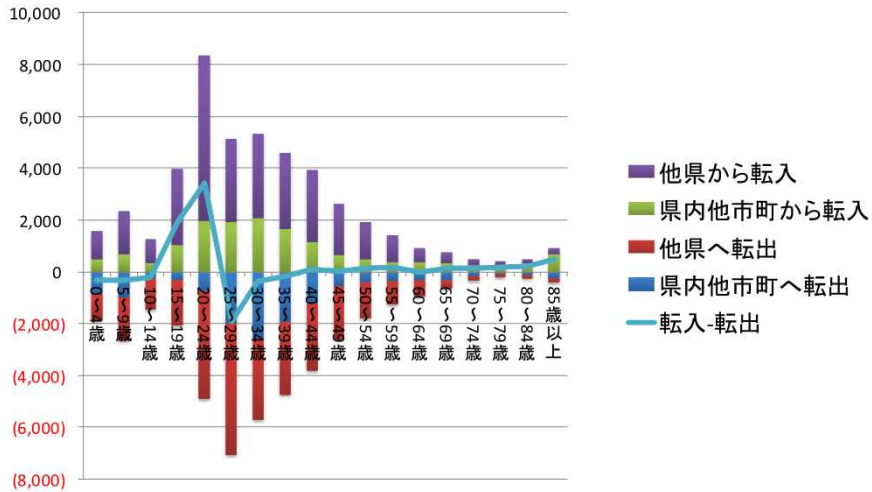


※参考(5年前との比較)

金沢市における転出入人数(2005～10年)。労働力状態別。  
出所：国勢調査より作成。(単位：人) ※ただし、国外先転出分除く。

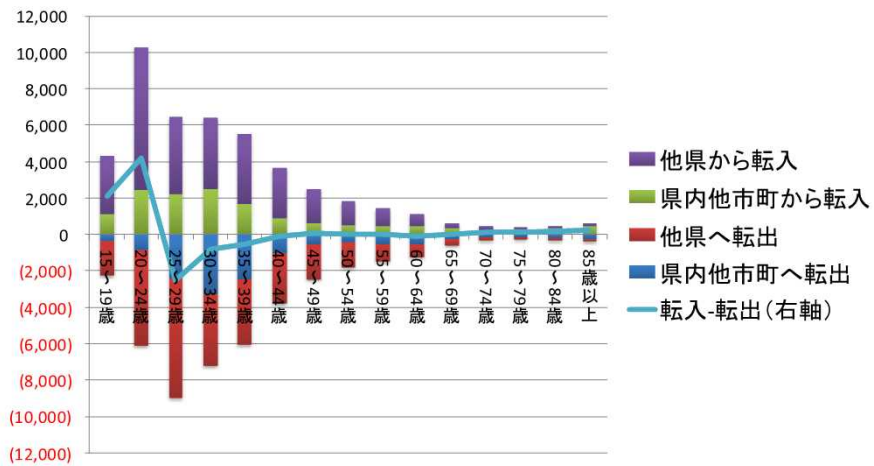


金沢市における転出入(2010～15年)。年齢別、  
出所：国勢調査より作成。(単位：人)  
※ただし、国外先転出分除く。

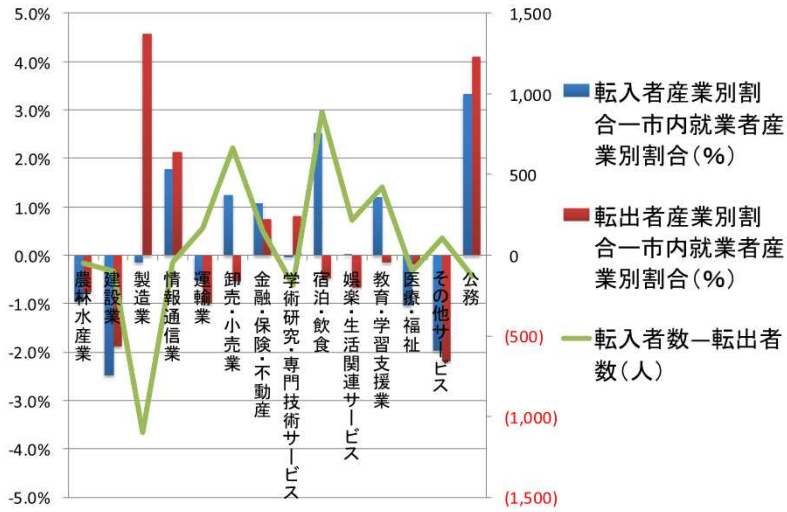


※参考(5年前との比較)

金沢市における転出入(2005～10年)。年齢別。  
出所：国勢調査より作成。(単位：人) ※ただし、国外先転出  
分除く。

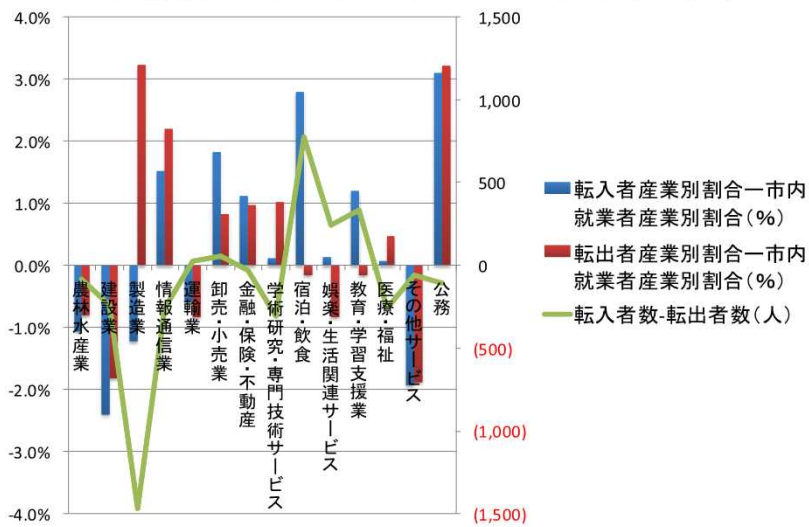


金沢市における転出入(2010~15年)。産業別。15歳以上就業者。  
出所:国勢調査より作成 (単位:%、人)  
※ただし、国外先転出分除く。



※参考(5年前との比較)

金沢市における転出入就業者数(2005~10年)。産業別。  
出所:国勢調査より作成 (単位:%、人) ※ただし、国外先転出分除く。



金沢市における転出入就業者数(2010～15年)。地域別。  
出所:国勢調査より作成。(単位:人)

		転入	転出
県内	かほく市・河北郡	3,053	3,227
	白山市・野々市市	5,445	6,307
	南加賀	2,638	2,081
	中能登	2,339	1,251
	奥能登	1,507	755
	計	14,982	13,621
県外	北海道・東北・北関東	2,547	2,297
	首都圏	6,614	7,275
	富山・福井	7,046	4,743
	甲信越(新潟・長野・山梨)	2,515	1,656
	東海・中部(岐阜・静岡・愛知・三重)	5,078	5,110
	近畿圏	5,068	5,601
	中国・四国・九州	2,496	2,444
	国外	1,546	不明
	計	32,910	19,126

金沢市における転出入就業者数(2005～10年)。地域別。  
出所:国勢調査より作成。(単位:人)

※参考(5年前との比較)

		転入	転出
県内	かほく市・河北郡	1,930	2,059
	白山市・野々市市	3,488	4,775
	南加賀	1,553	1,505
	中能登	1,550	902
	奥能登	961	520
	計	9,482	9,761
県外	北海道・東北・北関東	1,531	1,422
	首都圏	3,701	5,083
	富山・福井	4,258	3,626
	甲信越(新潟・長野・山梨)	1,304	1,201
	東海・中部(岐阜・静岡・愛知・三重)	2,923	3,884
	近畿圏	3,502	3,553
	中国・四国・九州	1,347	1,514
	国外	749	不明
	計	19,315	20,283

合計特殊出生率	2003～2007年	2008～2012年
全国平均	1.31	1.38
東京都	1.04	1.11
特別区部	0.99	1.07
石川県	1.40	1.46
金沢市	1.31	1.39
南加賀	1.50	1.57
石川中央	1.42	1.47
野々市市	1.52	1.69
津幡町	1.49	1.49
内灘町	1.22	1.25
能登中部	1.52	1.57
能登北部	1.66	1.66
沖縄県	1.74	1.86

資料：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」より作成

## コメント

- ・ 東日本大震災(原発事故)に北陸新幹線開業が重なったためか、金沢への人の流れが活性化している。
- ・ 30代・就業者の転出超過、周辺市町村・首都圏への転出超過、卸・小売業の転出超過がいずれもこの5年で緩和(ないし逆転)した。
- ・ 一方で、能登や南加賀からの人口流入も強まった。人口供給源としての能登や南加賀が衰退すると時間差で金沢にも影響する。一極集中は必ずしも良いことではない。
- ・ 金沢への集積構造は持続するかどうか。創業の場、資金調達、人材ネットワーク、取引の機会等を仲介する「都市型」非営利ビジネスが多数生まれるか。